占めている。小規模漁家は遊漁案内や民宿へ力を注ぐ傾向にある。

以上，本地域は，海岸部の漁業及び観光業を兼業とする海岸部農村と，内陸部の純農村に分けられる。農業地域は作物の組み合わせからさらに細分化される。

熱海市の地域構造

越　智　敬　子

観光と地域の結びつきに興味をもち，熱海市を選んで，観光都市の成立過程と地域構造を考察した。

論文構成

Ⅰ章　地域の概観

Ⅱ章　温泉観光業の発達

Ⅲ章　市街地の構造

Ⅳ章　結語

論文の順序に従って要約すると次のようになる。

熱海市は，東京と時間距離最低1時間の近距離に位置し，豊富な温泉と温和な気候を基盤にして，平担地の狭小な地域に温泉観光業のみが発達してきた。土地利用・人口・産業について概観すると，耕地率１０％弱と低く，人口密度は温泉街に集中して高く，女子人口が半数以上を占め，サービス業就業者率５０％を越えて観光都市の性格を示している。

温泉観光地の発達過程は，湯治場→休養地→遊覧地→観光都市の４段階に区分されるが，熱海は，明治以来日本最大の温泉地として発達し今日最も進んだ観光都市段階に至っている。つまり，旅館の巨大化，観光市場の拡大，季節変動の通年化につれて，関連観光産業の展開，観光ルート上の宿泊拠点，遊興地性格の増大が現われている。

発達要因は，明治以後の発達過程と地域の変遷から推論すると，東京との近接性と温泉を基盤にして，交通条件を整えながら，積極的な観光資本を投下してきたことにある。観光資本は，時代が進むにつれて巨大になり，特に，昭和３０年以降の観光ブームの中で，中央資本は，ホテル・遊園地・交通の乗り入れなど積極的に観光開発に進出している。それゆえ熱海市の市街地も，明治初期の源泉周辺から現在は駅周辺の発達を経て，山地斜面，及び海岸に伸びている。

地域構造については，以上の発達過程の一時期として現在の熱海地区をとり上げて考察した。

観光産業事業所の分布から，市街地は大きく二地域に分かれる。旅館業を中核にして関連サービス業・娯楽業が混在する高度５０m以下の地域(A)と，５０～１５０mの住宅＋寮の地域(B)で，(B)の外側には，山林，原野を開墾した新しい住宅団地を含む地域(C)がとりまく。(A)と(B)は，人口密度が高く(A)地区には，商店街・旅館街・歓楽街が集積し，駅前から糸川河口にかけて，都市の中心地帯を形成している。細かい地域区分は指標がなく把握できないが，発達過程から部分的な説明は可能である。

又，市域内は，合併前の村界で熱海地区と他の5地区に分けられるが，各地区は，観光産業の発達につれ，泉・伊豆山の連続した観光地化，南熱海・初島の独自の観光資本導入，多賀の住宅地化と地域差を生じている。

人口移動から，更に広い地域構造をみると，隣接する伊東・沼津・小田原から通勤者を吸引し，東京には吸引されている。流出入人口においても京浜との入替が目立つが，観光客は全国的規模で吸引している。物資の流通が江戸時代から東京に依存していることを考えると，熱海市と大都市東京との密接な関連がわかる。

武蔵野台地北東部の地理学的研究
—— 三富新田を中心として ——

坂　巻　郁　子

武蔵野台地北東部の集落の多くは，江戸時代以降の開発による新田集落である。三富新田は，土地割，規模などからみて，その中でも最も典型的と言える。江戸時代に開拓されるまでは，周辺古村の秣場となっていたのであるが，長い間無居住地域として残された最も大きな理由の1つに，台地上にあり，水が得にくかったことがあげられる。

三富地区は，台地北東部のほぼ中央に位置するが，この地区の大きな特徴として，新田集落であるということと，首都周辺地域に存在しているということの2つをあげることができると思う。現在の三富地区を外観から判断するならば，屋敷林に囲まれた茅ぶきの家屋，その背後の耕地，畦畔の茶の樹そして山林と，新田開発時代の面影を強く残す純農村地域である。台地北東部は，首都周辺地域に位置するという条件のもとに，最近著しい変容を遂げている。ことに東武東上線，西武新宿線など私鉄沿線の大型団地造成や分譲地，分譲住宅の進出には目ざましいものがある。また工場の進出，商店の増加もみられる。その結果，台地北東部の市町村には，急激な人口増加，産業構造の変化などがみられる。このような中にあって三富地区は，景観的には，純農村地域という特徴を強くもち，三富地区周辺の鉄道沿線の変容とは，著しい対照をなし，新田開発以後，わずかな変化しか起きていないとさえみえる。しかしながら，農家の聴き取り調査およびアンケート調査により，農家内に質的な変化が起きていることがはっきりした。雑穀中心から野菜中心へと，栽培作物に変化がみられる他に，農家の経営形態にも変化がみられる。「穀類中心＋茶＋家畜」という新田開発時代の経営形態から変化したと思われる「野菜中心＋茶＋家畜」という経営形態が現在のところ大部分を占めるものの，最近の他産業のめざましい発展の中にあって，最も効率的な商品生産農業を行なうべく，作目選択の必要にせまられていること，最近人手不足が目立っていることなどから，野菜・茶・家畜のいずれかを選択し，単一部門的経営を行ない，経営の合理化をはかるという動きがみえ始めている。また，これとは対照的に，家計維持の経営にとどまり，耕作は最低限にとどめ，土地の値上がりを待つという農家も存在する。また，三富地区の現在の